

## 自転車競技ロードレースの魅力を感じろ

**東**

京2020オリンピック自転車競技ロードレースの県内開催決定を受け、大会成功に向けた県民の機運醸成を図るため、11月中旬、県民の日小瀬会場で記念イベントを開催しました。東京2020オリンピック・マスケット「ミライトワ」と、パラリンピック・マスケット「ソメイティ」によるステージでは、子どもたちとのダンスや握手会が行われました。

PRブースでは、ロードレースの県内コースと自転車競技の魅力を紹介する動画の放映や、パネルの展示を行いました。また、あたたかも現地を走っているかのような体験ができる「サイクリングVR」コーナーや、特設コースで実際にロードバイクに試乗しそのスピード感と魅力を体験できる「実走体験」コーナーなどは、多くの家族連れでにぎわいました。



東京2020オリンピック・パラリンピック マスケットによるステージ

## 知って、伝えて、広めよう「やまなしの食」

**山**

梨の特色ある郷土食を次世代に継承していくとともに、地域の活性化や観光振興につなげていくための取り組み「食による地域の魅力再発見事業」を展開しています。本県の郷土食などのうち、特に継承に取り組んでいく167品目を「やまなしの食」に認定し、そのうちの代表的な47品目を「特選やまなしの食」に選定しました。

選定した47品目に関するクイズや試食会などの実施を通じて山梨の食文化を県民に広めていくほか、今後は平成31年2月に開催する「やまなしの食」を考えるシンポジウムや、6月に本県で開催される「食育推進全国大会」で、山梨の郷土食の魅力を紹介していきます。



試食会では、せいだのたまじ(上野原市)や、にらまん(韮崎市)を参加者に振る舞った

## 新・子宮頸がん検診車運用開始 20歳になったら2年に一度の検診を

**10**

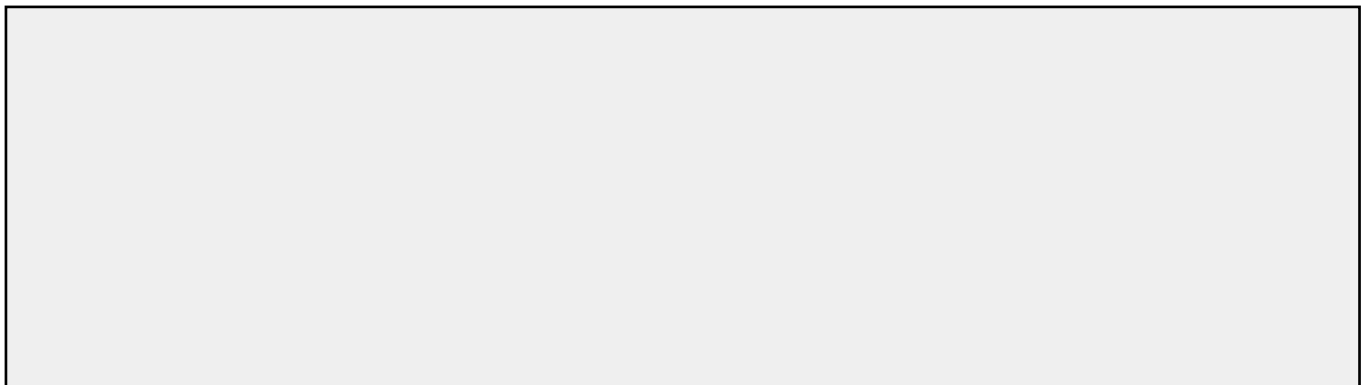
月下旬、県庁噴水広場にて、新たな子宮頸がん検診車の運用開始式を行いました。今回導入した検診車は、車内を明るく、段差をなくすなどして、より快適な環境で検診を受けることができるだけでなく、新たに超音波診断装置を搭載したことにより、子宮体がんや卵巣の異常も発見できるようになりました。また、車体には、これまで子宮頸がん検診を受けてこなかった方に関心を持ってもらえるようなデザインをラッピングしました。

今後は、より多くの皆さんにこの検診車を活用していただき、子宮頸がんによる死亡率の減少を目指していきます。

「20歳になったら2年に一度の検診を。」のメッセージが書かれた、新たな検診車の運用開始式



ここから下の段は広告です。広告の内容については、広告主にお問い合わせください。



## 東京2020オリンピック・パラリンピックを好機に、山梨とフランスの交流を深める

フランスは、山梨県内9市町村で東京2020オリンピック・パラリンピックの事前合宿を行うこととしています。県では、これを好機と捉え、さまざまな分野における交流促進に取り組んでいます。

### 甲州軍団、パリで「びざ、出陣！」

**日** 仏友好160周年の今年7月から平成31年2月までフランス・パリを中心に、大規模な日本文化紹介行事「ジャポニスム2018」が開催されています。

県では甲府市と共同して、「『地方の魅力』―祭りと文化」に甲州軍団出陣で参加し、10月中旬、パリ西部のアクリマタシオン庭園で勇壮な武者行列を披露するとともに、観光ブースでは山梨の魅力を紹介しました。信玄公役には、自転



よろいかぶとをまといパリ市内を勇猛果敢な姿で行進するフランス市民



初めて持つ刀に興奮する、現地の子どもたち

車プロロードレース「ツール・ド・フランス」などで活躍するロードレーサーのサミュエル・デュムラン氏や、ルディ・モラー氏を起用。また、山本勘助、湖衣姫役には、情報発信力のある現地のインスタグラマーなどを起用し、SNSで出陣の様子を発信してもらいました。

県では、今回のジャポニスム2018を契機に、今後も効果的・継続的に情報発信などを行い、フランスとの交流を深めていきます。

## ミレー作品を介してフランスとの文化交流

**11**

月3日に開館40周年を迎えた県立美術館では、ミレーと同じく身近な自然の美しさを主題として表現するバルビゾン派の画家シャルル・フランソワ・ドービニーの国内初の特別展を開催しました。今回の特別展は、フランス・ランス美術館など多くの美術館からの協力を得て開催されたものです。

フランス・リール宮殿美術館は、平成26年の県立美術館特別展「生誕200年 ミレー展」にミレーの絵画を出展。一方、県立美術館は、平成29年にリール宮殿美術館で開催された「ミレー回顧展」へ県立美術館所蔵の代表的作品《落ち穂拾い、夏》を貸し出すなど、山梨県とフランスの間では、ミレー作品を介した文化交流が深められています。



特別展「シャルル＝フランソワ・ドービニー展」のオープニングセレモニーであいさつをする、ランス美術館館長カトリーヌ・ドウロ氏

ここから下の段は広告です。広告の内容については、広告主にお問い合わせください。

